

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	訪問介護論B (Home Help Service B)	授業コード	E040851
担当教員名	野中 義光、姫嶋 良子、佐保 嘉代子、今給黎 晃、山本 裕子、河村 裕次、鶴田 登志子、小桐 修		
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	訪問介護論Aの履修者のみ。 また、介護職員初任者研修修了(旧ホームヘルパー2級資格相当)のためには、基本介護技術と介護実習を履修することが必要です。		
受講心得	毎回必ず出席すること。欠席した場合は、補講を受けることが必要です。		
教科書	介護職員初任者研修用テキスト		
参考文献及び指定図書			
関連科目	訪問介護論A, 基本介護技術, 介護実習		

授業の目的	介護職として働くうえで、求められる知識・態度・技術の習得を行う
授業の概要	介護職員初任者研修のカリキュラムに沿い、高齢者・障がい者に関する知識の習得を行う

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：障害の基礎的理解 ①障害の概念とICFについて、②障害者福祉の基本的理念について、③各障害について、④障害の理解・障害の受容支援について、⑤介護負担の軽減について学修します。	配布資料
第2週：認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 ①パーソンセンタードケアについて、②認知症ケアの視点について、③認知症の概念について、④認知症の原因疾患とその病態について、⑤原因疾患別ケアのポイントについて学修します。	配布資料
第3週：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、家族への支援 ①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴について、②認知症の利用者への対応について、③認知症の受容過程での援助について、④介護負担の軽減について学修します。	配布資料
第4週：死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ①終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみについて、②生から死への過程について、③死に向き合うこころの理解、④苦痛の少ない死への支援について学修します。	配布資料
第5週：人権啓発に関する基礎知識 介護職員として求められる権利擁護や人権に関する基礎知識について学修します。	配布資料
第6週：介護の基本的な考え方 ①理論に基づく介護について、②法的根拠に基づく介護について学修します。	配布資料
第7週：介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ①学習と記憶の基礎知識について、②感情と意欲の基礎知識について、③老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について学修します。	配布資料
第8週：介護に関するからだのしくみの基礎的理解① ①人体の各部の名称と働きに関する基礎知識について、②ボディメカニクスの活用について、③利用者の様子の普段との違いに気づく視点について学修します。	配布資料
第9週：介護に関するからだのしくみの基礎的理解②	

①人体の各部の名称と働きに関する基礎知識について、②ボディメカニクスの活用について、③利用者の様子の普段との違いに気づく視点について学修します。	配布資料	
第10週：生活と家事 ①家事と生活の理解について、②家事援助に関する基礎的知識と生活支援について学修します。	配布資料	
第11週：快適な居住環境整備と介護 ①快適な居住環境に関する基礎知識について、②高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用に関する留意点と支援方法について学修します。	配布資料	
第12週：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護① ①移動・移乗に関する基礎知識について、②さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法について、③利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、④移動と社会参加の留意点と支援について学修します。	配布資料	
第13週：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護② ①移動・移乗に関する基礎知識について、②さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法について、③利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、④移動と社会参加の留意点と支援について学修します。	配布資料	
第14週：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護③ ①移動・移乗に関する基礎知識について、②さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法について、③利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について、④移動と社会参加の留意点と支援について学修します。	配布資料	
第15週：睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ①睡眠に関する基礎知識について、②さまざまな睡眠環境と用具の活用方法について、③快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学修します。	配布資料	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考	講師の都合により、講義内容が変更になる場合があります。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	利用者にとっての生活の充実を提供し、かつ、不満足を感じさせない支援を行うことができる。
【知識・理解】	認知症の利用者を介護するうえでの原則を理解している。 介護において障害の概念とICFを理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点について説明することができる。
【思考・判断・創造】	死に向かう生の充実と尊厳ある死について考察することができる

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		25点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		25点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		25点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		25点		
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	講義終了後のレポート等をもとに総合的に判断します。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他(無形成果)	